

種名	オ オ カ マ キ リ <u>Tenodera aridifolia</u> 
分類	カマキリ目カマキリ科
形態的な特徴	体長 70～95mm ほどの日本最大のカマキリで、メスの方が大きい。体色は、黄緑から淡褐色までさまざまである。とくに雄に前脚や前翅が淡褐色の個体が現れやすい。複眼が大きい。前脚は鋭い鎌のようになっていて、獲物を鎌で挟み込んで捕らえる。卵のうは泡状でほぼ球形をしている。
分布	北海道・本州・四国・九州に分布する。
生態的な特徴	秋に交尾を行い、日の当たる木の枝などに泡状の卵のうを産みつける。オスは交尾中にメスに食べられてしまう場合もある。卵のうの形は種によって異なり、一般的によく知られている卵のうは本種のものである。卵は、翌春までそのままの状態越冬し、4月頃になると卵のうから小さなカマキリがあふれるように産まれてくる。幼虫は成虫と同じように小動物を捕らえて生活し、10 回ほど脱皮をくり返し9月頃には成虫になる。成虫はバッタなどの昆虫のほか小さなカエルやトカゲを食べることもある。オスはよく飛ぶがメスは体が重いせいかほとんど飛ばない。危険が近づくと前翅、後翅を広げ、鎌を持ち上げて威嚇姿勢をとることがある。
生息環境	林縁の葉の上や茂み、丈の高い草地などでよく見かける。人間生活圏近くの身近なところに生息している昆虫であるが、高標高地や北国では少ない。
生息状況	現在でも比較的によく見かける種であるが、本種が生息するような丈の高い草地や林縁部の草地などが身近な場所に少なくなったため都市近郊ではあまり見かけなくなった。
生息環境への配慮事項	生態系の中で高い位置にいる本種が生息するためには、生息環境もさることながら、そこに生息している餌となる昆虫が豊富に生息していることが重要となる。
その他	よく似た種にチョウセンカマキリ <i>Tenodera angustipennis</i> がいるが、後翅を広げると本種は基部を中心に翅が黒いのに対し、チョウセンカマキリは透明であることから容易に区別できる。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	